

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 17日

事業所名 放課後等デイサービスささゆり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	運動ができる広い空間	全職員が運営基準を理解する 運動や学習、イベントなど活動や場面に応じて使い分ける
	2	職員の配置数は適切である	5	0	運営基準より常時2~3人多い体制	全職員が運営基準を理解する 運動や学習、イベントなどで手薄とにならないよう担当役割りや声を掛け合う
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0	玄関以外はバリアフリー	非常災害時の避難経路も想定する
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	日々、報連相を大切にしている	担当や携わっている職員間で連携をとる 業務において時間帯、役割等メリハリのある取り組みを行う
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	施設においても課題を共有し改善点を検討している	保護者の意向を把握し業務改善につなげる
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	ホームページでの公開だけでなく、書面にて配布している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5		今後、検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	定期的な研修の実施 研修後のレポート等振り返りを行っている	今よりも研修会数を増やす
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	児童発達支援管理責任者を中心に職員で意見を出し合い作成している	参加者一人ひとりが意見を出す
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	必要に応じてアセスメントシートの項目を追加する等修正をしている	随時アセスメントシートを確認して支援を振り返る等アセスメントシートをもう少し活用していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	児童の特性、相性、人数など状況に応じて職員全員で検討している	担当者が中心となりながら、サブの職員も役割を明確にしてメリハリのあるスムーズな行動をとる
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	ねらいや目標だけに着目せず、楽しく取り組めるよう個別・集団活動、イベントを工夫している	新しい発想やアレンジをもっと増やしていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	なるべく学校や家庭でできない事を楽しみながら取り組めるよう設定している	楽しさを一番に考えながら、もう少し個々の課題に応じたきめ細やかな設定をしていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	上記同様	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	児童の特性、最近の様子、想定される場面のほか、活動の内容や役割分担など共有している	限りがある時間の中で行うため、有意義に活用する
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	支援全般、ヒヤリハット、事故、苦情や相談など共有している	上記同様
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		事柄によって、記録をつける必要の範囲(レベルや基準)を全職員が統一理解を持つ
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	児童発達支援管理責任者を中心に職員で意見を出し合い作成している	参加者一人ひとりが意見を出す
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	0	ねらいや目標だけに着目せず、楽しく取り組めるよう個別・集団活動、イベントを工夫している	全職員がガイドラインを読み、理解を深める	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	児童発達支援管理責任者が参画している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	施設から利用報告書を作成し情報共有している 定期的に連絡調整し、必要に応じて確認も行っている	日頃から情報は求めていく姿勢を持つ 違和感があればすぐに確認する
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	5		今後、医療的ケアを受け入れられる体制(施設・人員)を整える必要がある
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	5		現在、高校生を受け入れていないため、今後必要に応じて検討する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	児童発達支援センターと定期的に連携をとっている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2	地区の自治会に参画し検討している	児童の特性や課題などを含め、個人情報の保護の観点からも慎重に判断する必要がある
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	5		今後、検討する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	連絡帳やLINE、送迎時だけでなく、日々の様子をweb上に記載し、共通理解に努めている	その日に関わった職員でないと伝えられない事がある為、付箋を用い、送迎時やweb上の様子記載に反映できるよう工夫する
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3		今後、ペアレントトレーニングの機会を作っていく	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	丁寧・分かりやすくを意識して説明し、必要に応じて再度説明している	管理者・児童発達支援管理責任者以外の職員も運営規定・利用契約書・重要事項説明書を読み、理解を深める
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	丁寧な対応を心掛けている	送迎時や引継ぎの際の何気ない会話を大切にし、職員間で共有し、対応していく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		今後、保護者会・親子ふれあい会など開催し、保護者同士のつながりが持てる機会を作る
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	丁寧な対応を心掛けている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	イベントカレンダーや必要に応じてお知らせを配布している	
	35	個人情報に十分注意している	5	0	研修を行って意識を高めている	定期的な研修と職員間での声掛けとともに、細かな部分についての共通理解をより一層深めていく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	各家庭の状況に合わせて対応を心掛けている	状況によって対応の困難さを感じるため、その都度検討する
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	地区の自治会に参画し検討している	児童の特性や課題などを含め、個人情報の保護の観点からも慎重に判断する必要がある

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0		定期的な見直しを行う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	地震と火災について行っている 消防署員さんに参加してもらったり、起震車を呼んで取り組んでいる	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0		定期的な研修だけでなく、事例検討などを中心に場面に応じた具体的な支援方法を検討する
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1	身体拘束の必要性ではなく、支援をどう工夫していくかを検討している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	支援開始前と終了後にヒヤリハットや事故の有無を確認している	場面によってどこからどこまでがヒヤリハットなのか全職員が統一理解を持つ